

7月26日(金)18:30～ SM 地下スタジオにおいて、ストラスブール音楽院教授エマニュエル・セジョルネ先生と、やはりストラスブール音楽院教授でセジョルネ先生のデュオパートナーでもある奥様のシルヴィー・レナール先生によるマスタークラスを開催させて頂きました。

世界中の打楽器界で大人気のセジョルネ先生にはこれまでも数回来校して頂いたことがあり「迎えに来てもらわなくても溝の口から大学まで自分で行けるよ!」と、すっかり洗足に馴染んでいらっしやいました。今回は奥様のレナール先生もご一緒に来日なさるということで、ご一緒にいらして頂き、お2人のデュオによる模範演奏も含めた一層贅沢なマスタークラスとなりました。

マスタークラスでは打楽器コース学部生3名が、セジョルネ先生作曲のマリンバコンチェルト、フランス人打楽器奏者エリック・サミュのマリンバ作品、フランスのパリコンセルヴァトワールの実技試験曲として作曲された ミハエル・カルのマルチパーカッション作品を演奏しました。楽譜を丁寧に読むこと、曲に対するイメージをしっかり持つことなど、当たり前のようにいて普段つい忘れてしまいがちな点への的確な指摘を沢山頂き、それぞれ立派な演奏を披露した3人も、あるレベルに達しているからこそ、あらためて基本に立ち戻ることの大切さを感じたことと思います。

マスタークラス後には、先生方お2人でマリンバとヴァイブラフォンのデュオを3曲演奏して下さい、息の合ったエキサイティングな演奏に会場が大いに盛り上がりました。

セジョルネ先生、レナール先生から、受講生、聴講生共にみんなが真剣な気持ちでマスタークラスに参加してくれていて嬉しかったとの感想を頂きました。

これまでに、セジョルネ先生に師事して頂く為にストラスブール音楽院に留学し、その後国内外で活躍している本学打楽器コース卒業生も複数名おりますが、今回のマスタークラスが、また今後日本のみならず海外の打楽器・音楽の潮流に乗り羽ばたいていく新しい若者を産む1つのきっかけになるかもしれません。打楽器コース学生にとっての貴重な機会をつくって下さった大学に深く御礼申し上げます。



